鶴岡市社会福祉協議会

おだがいさま

odagaisama

第25号
平成21年
11月15日発行

若いパワーが地域を元気にもりあげる!

福祉のつどい開催しました（P2～4）
歳末たすけあい運動のお願い（P5）
情報掲示板（P6）

温海地域では、地域の方々とのふれあいをとおしながらボランティアへの理解を深めてもらうことを目的に、高校生、中学生を対象とした『青少年ボランティア養成講座』を実施しています。

9月27日(日)、温海ふれあいセンターを会場に、青少年ボランティア養成講座主催による『子ども祭り』が行われました。受講生は、手づくりのおばけやしき、バルーンアート、パステル画づくりで、遊びにきた小学生や保育園児と一緒に楽しく過ごし、人と接することの大切さ、ボランティア活動の喜びを感じていました。

福祉のつどい

おだがいさま の まちづくりを目指して

去る10月15日（木）、中央公民館市民ホールにて第３回福祉のつどいを開催しました。当日は、天候にも恵まれ、約450人の方々からご参加いただきました。その内容についてご紹介します。

プログラム

13：30　オープニング
もみじが丘の皆さんによる和太鼓演奏と歌

13：45　開　会
挨拶　鶴岡市社会福祉協議会 会長　富樫　毅
表彰　福祉功労者への表彰状・感謝状の贈呈
祝辞　鶴岡市長　富塚　陽一 氏
鶴岡市議会議長　神尾　幸 氏
※役職名は10月15日当時のものです

14：05　市社協の活動紹介
地域包括支援センターの事業と特定高齢者通所型介護予防事業についての紹介

14：40　講　演
演題「ご近所パワーで“おだがいさまのまちづくり”～住民流福祉のすすめ～」
講師　住民流福祉総合研究所 所長　木原　孝久 氏

16：15　閉　会

もみじが丘のみなさんが和太鼓演奏と歌を披露してくれました。

市社協の活動紹介

地域包括支援センターの事業
特定高齢者通所型
介護予防事業について

スライドを使って、地域包括支援センターの職員が説明を行いました。

地域包括支援センター

高齢者ご本人や住民から、地域で日常生活を送る上での悩みや相談を受付け、サービス・関係機関を紹介したり、支援したりするところです。鶴岡市では、鶴岡市直営一箇所と、今年度から鶴岡地区医師会と鶴岡市社会福祉協議会が市から委託を受け、計三箇所の地域包括支援センターが運営されています。

主任ケアマネジャー、保健師、社会福祉士などが、高齢者の皆さんに以下のような支援を行っています。

『総合相談支援業務』
・介護に関する相談
・健康や福祉、医療や生活に関する相談

『介護予防マネジメント業務』
・介護予防サービスの利用支援（要支援一・二の方）
・介護予防事業の利用支援（介護や支援が必要となる可能性の高い方）

『権利擁護事業』
・成年後見制度の活用促進
・高齢者虐待への対応
・消費者被害防止　など

『包括的・継続的ケアマネジメント支援業務』
・高齢者を取り囲む関係機関によるネットワークづくり
・ケアマネジャーの支援や指導

特定高齢者通所型介護予防事業

鶴岡市の委託により鶴岡市社会福祉協議会が実施している事業で、要介護状態への進行を予防することを目的としています。

※注特定高齢者の運動機能の向上と認知症予防を指導し、心身機能低下を予防します。

専任指導者として看護師や介護予防指導員などが携わり、以下のような支援を行っています。

『健康状態の確認』
血圧・脈拍・体調などの検査による運動前の健康チェック

『運動機能向上指導』
足腰の筋力トレーニングやストレッチを指導し、習慣化を促すことを実施

『認知症予防の指導』
レクリエーションなどを行い、楽しみながらの認知症予防を実施

『栄養指導』
栄養バランスや健康によい食事の摂り方などを指導

『口腔機能向上指導』
お口の健康維持のため、だ液腺マッサージや健口体操を実施

※注　特定高齢者…介護や支援が必要となる可能性が高い六十五歳以上の者

講演

講師 住民流福祉総合研究所 所長 木原 孝久氏

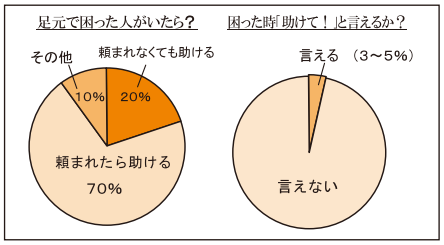
三十年以上にわたり、住民流福祉のあり方を追い求め、住民主体の支え合いのまちづくりを提唱・支援されている木原孝久氏をお招きし、「ご近所パワーでおだがいさまのまちづくり～住民流福祉のすすめ～」と題してご講演いただきました。

木原 孝久 氏

ポイント①「自助」から出発

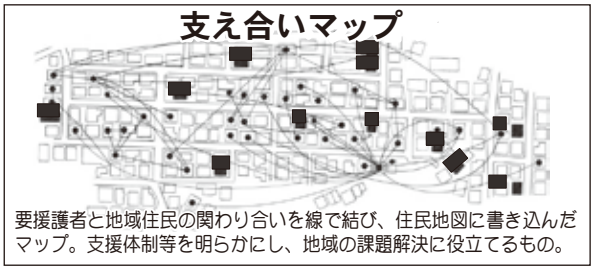
今までの福祉は、介護保険や自立支援法などの制度やサービスの整備を進めてきました。しかし、孤独死・虐待など、制度の充実だけでは解決できない「すき間」が生じてしまいました。

孤独死などが起こるのは、行き詰った時に、周りに助けを求めなかった背景があります。ある調査では、「困ってる人がいたら助ける」と回答した人は大多数を占めています。行き詰る前に、助けられる側が助けを求めていたら、最悪の事態は防ぐことができたかもしれません。困った時には、まず「助けて」と言うことから、支え合いは始まります。



ポイント② 共助はご近所から

今までは、公助中心の「困ったら相談機関に来なさい」というやり方で、担い手がやりやすい福祉でした。しかし、困った時に助けを求められる人は少数で、「すき間」を埋めることができませんでした。その問題点を解消するカギを握るのは、住民同士の助け合いです。ご近所さんは、周りのちょっとした異変に気がついています。その情報を活かすには、井戸端会議などの住民同士で悩みを出し合っているような場に民生委員などが出向いて話しを聞き、ニーズを発掘することが必要です。聞きに来てくれれば悩みを話すという人は多く、問題がまだ小さいうちに気付くことができれば、解決もしやすいのです。



要援護者と地域住民の関わり合いを線で結び、住民地図に書き込んだマップ。支援体制等を明らかにし、地域の課題解決に役立てるもの。

そしてまた、地域の中にいる困っている人を放っておけない「世話焼きさん」と呼ばれる人たちを活かしてください。ご近所では誰と誰が関わっているかをよく知っています。それを「支え合いマップ」に記しながら、周りからの支援がないような人を探したり、世話焼きさんが解決できない問題を地区社協などにつなげたりして、地域の中に問題解決のネットワークを築くことで、孤独死などの悲惨な事件を未然に防ぐことができるようになるのです。

ポイント③ 住民の流儀に従う

住民流福祉は、助けてもらう側が助けてもらいやすい福祉を目指しています。助けてもらう側の気持ちになり、時には要援護者から助けてもらったり、誰しもみな「豊かに生きたい」という願いをどう支えるかを考えたりすることが住民流福祉です。

そしてまた、仕事中や通勤中などの生活の中のちょっとした接点で要援護者を見守り、関わりを持つようにすれば誰でも「ボランティア」できるのです。

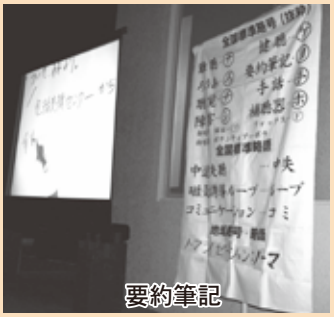
点字資料・手話通訳・要約筆記

点字資料

▲「鶴岡点字サークル」から点訳していただいた点字資料を受付けに準備しました。

手話通訳

▲手話奉仕員たちがステージ向かって左側に立ち手話で通訳を行いました。



要約筆記

▲要約筆記「ばんけの会」から協力いただき、ナレーション等を文字にしてスクリーンに映しました。

障がい者福祉施設製品の展示・販売

「おからや」「じゃがいも」「さくらが丘」「鶴峰園」「かたぐるま」「もみじが丘」が出店し、心のこもった手づくり製品を販売しました。

福祉のつどい

おだがいさま の まちづくりを目指して

表　彰

長年、地域福祉の向上に貢献された方や団体へ富樫会長が表彰状・感謝状を贈呈しました。

表彰状

＊今野（こんの）　まさ子 氏（藤島地域）

昭和六十二年から平成十二年まで旧藤島町デイサービスセンターで食事介助等のボランティアとして献身的に活動されました。平成六年からは、一人暮らし高齢者会食交流会での調理や福祉施設でのリネン交換等、現在まで継続的にボランティア活動を実践されています。

＊おはなし玉手箱（たまてばこ）（藤島地域）

平成四年に設立（会員女性十四名）。おはなしや本が好きで子どもの健やかな育成を願う人が入会し、藤島地域で学童や幼稚園児等に読み聞かせや人形劇、パネルシアター等を披露して、地域の子育て支援に貢献されています。

＊羽黒町（はぐろまち）カラオケ同好会（どうこうかい）（羽黒地域）

昭和六十一年からチャリティショー「はぐろ芸能まつり」を毎年開催し、地域のイベントとして定着しています。また、現在では近くのグループホーム入所者も招待するなど地域福祉の推進に貢献されています。

＊松田（まつた）　安男（やすお） 氏（櫛引地域）

平成十五年七月から平成十七年十月まで旧櫛引町社会福祉協議会会長として、また、平成十七年十月から平成二十一年六月まで鶴岡市社会福祉協議会副会長として、法人運営及び地域福祉の向上に尽力されました。また、庄内南部地区社会福祉協議会合併協議会副会長として鶴岡市社会福祉協議会の合併に尽力されました。

＊山形県立山添高等学校（やまがたけんりつやまぞえこうとうがっこう）（櫛引地域）

平成七年から年二回全校生徒で櫛引地域、赤川河川敷のクリーンキャンペーンを実施。平成九年からは、保育園児達へ手作り遊具の作成・寄贈や、福祉施設の除雪や窓拭き、一人暮らし高齢者世帯・高齢者夫婦世帯等の生活路確保のための除排雪を行うなど地域福祉に貢献されています。

＊菅原（すがわら）　龍雄（たつお） 氏（朝日地域）

昭和五十八年より旧朝日村社会福祉協議会常務理事として朝日村社会福祉協議会の組織づくりに尽力するとともに、心配ごと相談員として活躍され、その後、生活支援員として地域福祉の向上に尽力されています。

＊五十嵐（いからし）ハルエ 氏（温海地域）

昭和五十三年から平成十九年まで温海手をつなぐ育成会理事として会員の加入拡大と障がい者への理解促進に努められました。また、障がい者の社会参加の場として「もみじが丘作業所」建設に尽力され、現在まで保護者の中心として地域で暮らせる基礎づくりに貢献されています。

感謝状

＊大友（おおとも）　教示（たかし） 氏（鶴岡地域）

平成十二年から市内のデイサービスセンターで利用者の写真を撮影し、施設への展示や本人への寄贈を行っています。また、なえづデイサービスセンターでは、卓球の相手・話し相手や、ハーモニカ演奏等のボランティア活動を継続し、施設行事へも毎年参加して活動されています。

＊鶴岡建設株式会社（つるおかけんせつかぶしきがいしゃ）（鶴岡地域）

平成十三年から毎年、鶴岡建設株式会社親善ゴルフ大会開催時に市民の福祉増進のために活用していただきたいと寄附を行い、今回、大会二十回目を記念して、さらに多額の寄附をし、地域福祉の推進に貢献されました。

＊一芸座（いちげいざ）（羽黒地域）

平成十一年から平成二十一年五月の解散まで、老人クラブやお茶のみサロン等で歌や踊り、寸劇、高齢者へ衣装をそろえた模擬結婚式や記念撮影等を行って、手作りの笑いと感動を提供し、地域福祉の向上に貢献されました。

平成21年度

～みんなでささえあうあったかい地域づくり～

歳末たすけあい運動にご協力お願いいたします。

今年度も共同募金運動の一環として、11月１日より**「みんなでささえあうあったかい地域づくり」**をスローガンに「歳末たすけあい募金運動」が展開されます。

皆様より寄せられた募金は、地域で支援を必要とする方々などへの援助や地域福祉活動の推進のために役立てられております。

今回も新たな年を迎えるにあたり、みんなが「おだがいさま」でともに支えあい、安心して暮らすことができるように皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

◎お願いしたい募金額　　1世帯あたり　210円以上

◎運動期間　　11月１日(日)～12月31日(木)

歳末たすけあい募金の流れ

家庭・学校など →（募金）→ 山形県共同募金会鶴岡市支会 → 山形県共同募金会 → 鶴岡市社会福祉協議会 → 配分

皆様からご協力いただきます歳末たすけあい募金の配分・贈呈予定先

①経済的に支援を必要としている世帯へ
②児童養護施設の入所児童・生徒へ
③社会福祉協議会の地域福祉活動へ

歳末たすけあい運動の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

情報掲示板

福祉のしごとミニフェア³ ～就職面接会2009～

●日　時　平成21年12月1日㈫　午後1時～4時30分
●場　所　いろり火の里『なの花ホール』
　　三川町大字横山字堤172-1　☎66－4863
●参加者　福祉職場への就労を希望する方（事前申込み不要）
●参加料　無料
●内　容　⑴事業所と就労希望者との個別面接（面談）
　　【午後2時30分～4時30分】
　　※施設・事業所ごとに設置されたブースで、担当者が情報提供し就労希望者と随時面談する形式
　　※面接時には氏名・住所等を記入した「面接カード」使用（山形県福祉人材センターのホームページよりダウンロード可）
　　⑵各種相談コーナー等の設置
　　【午後2時30分～4時30分】
　　⑶講演会
　　【午後1時～2時30分】
　　講師　笑う介護士　　袖山　卓也 氏
　　演題　「笑う介護士に学ぶ～未来の介護～」
●問合せ　山形県福祉人材センター
　　山形市小白川町二丁目3番30号
　　☎023－633－7739　Fax023－633－7730

子育て広場「まんまルーム」リニューアルオープン記念イベント開催

●日　時　平成21年12月3日（木）　午前10時～
●会　場　マリカ東館　展示室、第1・2研修室
●内　容　⑴講演会　【午前10時～午前11時30分】
　　講師　東京成徳大学 教授　今井 和子 氏
　　演題　「子どもの心が見えると楽しくなる子育て」
　　定員　約80人（託児20人程度）
　　⑵遊びの広場　【午後1時30分～3時30分】
　　大型遊具、おもちゃなどを使った乳幼児の楽しい遊び
●問合せ/申込み　鶴岡市子育て広場 まんまルーム
　　鶴岡市末広町3-1マリカ東館3階　☎24－5635

ラティス寄贈ありがとうございました

市内在住の近藤修さんより「鶴岡市内の福祉施設で利用してほしい」と、金婚式の記念に作成されたラティスの寄贈がありました。

去る9月17日には寄贈セレモニーが行われ、市内の特別養護老人ホームや障害者就労継続支援事業所など9法人11施設で活用されています。

寄贈セレモニーの様子

ラティス：園芸等で使う木製間仕切り

ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
（平成21年8月21日から平成21年10月20日までのご寄付を掲載しています）

★ 一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センター
最上　光子 様　10,000円
五十嵐竹枝 様　20,000円
八沢会 様　100,000円

◎藤島福祉センター
藤島カラオケ愛好会 様　30,000円
須走老人クラブ 様　タオル83枚
藤島ゲートボール協会 様　15,000円

◎温海福祉センター
三浦　一廣 様　20,000円

★鶴岡老人福祉センターへ
菅原　勘二 様　足マッサージ機

★老人デイサービスセンターたかだてへ
近藤　修 様　ラティス5枚

★鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるまへ
近藤　修 様　ラティス5枚
梶原　喜吉 様　ロッキングチェア、革製品加工材料

★とようら老人デイサービスセンターへ
佐藤　忠一 様　サイダー、コーラ各24本
近藤　修 様　ラティス2枚

★老人デイサービスセンターふれあいへ
近藤　修 様　ラティス15枚

★高齢者福祉センターおおやまへ
杉山　初美 様　絵画6号14点、50号1点
近藤　修 様　ラティス10枚
阿部　恵子 様　綿布、タオル、衣類、湯たんぽ、洗剤

★大山児童館へ
本間　征一郎 様　色鉛筆、クレヨン、鉛筆、ノート

★鶴岡市鶴岡西部児童館へ
須貝　昌江 様　替着12枚

★デイサービスセンター愛寿園へ
佐藤　利克 様　10,000円

ほっとコラム

「笑顔で交流」

法人内にある施設間の交流を図るため、毎年「交流会」を開催しています。一回目は「作品展」、二回目は「競技大会」、そして、今年は九月十四日に「演芸交流会」を行いました。

入院している利用者さんが、先生にお願いして退院してきたり、また、緊張して当日のデイサービスを休む人もいたりで、いろいろなドラマが展開されました。

当日は、出かける前に化粧をしている女性の方、「みんなで頑張ろぜ」と声をかける男性の方、一つの目標に向かってみんなが力をあわせていくことのすばらしさを実感し、その姿に感動しました。

どの施設も日頃の成果を発揮し、一生懸命取り組んでいました。（Y・S）

おだがいさま
第25号
平成21年11月15日発行
発行部数　49,500部

編集・発行
社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市西新斎町14-26
TEL 24-0053　FAX 23-9110
ホームページ http://www.shk01.jp/

藤島福祉センター　TEL 64-3100
羽黒福祉センター　TEL 62-4534
櫛引福祉センター　TEL 57-5300
朝日福祉センター　TEL 53-2795
温海福祉センター　TEL 43-3266

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。